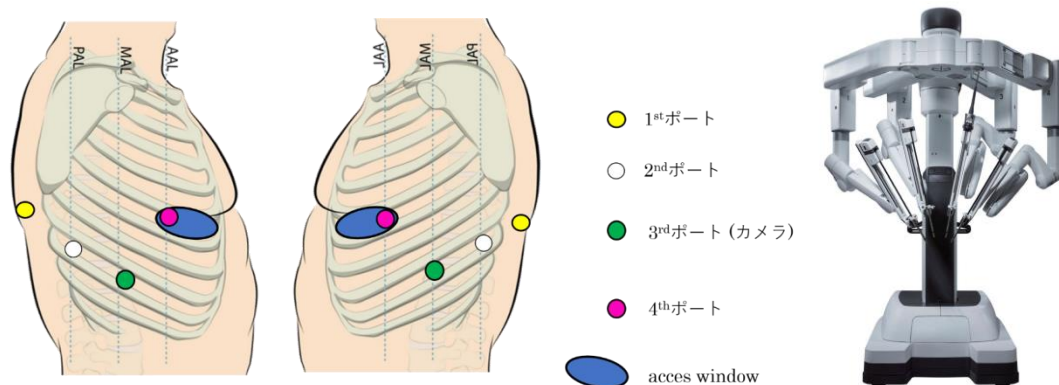


[ロボット支援手術を開始しました]

手術用ロボット(ダヴィンチ)を使った手術は、2012年に前立腺癌の手術に対して最初に保険が適応されましたが、2018年4月より呼吸器外科領域の手術(肺癌や胸腺腫などの縦隔腫瘍に対する手術)にも保険適応が拡大されました。当院では、手術用ロボットの最新鋭機であるダヴィンチ Xi を導入し、十分な準備の元に手術を開始しました。

ロボット手術では、胸に開けた小さな穴からロボットのアームを体内に入れ、手術を行います。ロボットのアームの先に装着された様々な手術器具で手術を行います(下図)。



実際の手術風景が下図ですが、術者はコンソールと呼ばれる操縦席に座って、モニターに映し出される三次元画像を見ながらロボットをコントロールします。



ロボット支援手術は、1) 小さな穴から手術を行うために身体への負担が少ないこと、2) 高画質な三次元画像を見ながら手術操作をするため、より繊細な手術が可能になる、3) 手ぶれ“等の無い正確で複雑な操作が可能になる、等の特徴があり、患者さんにとって大きなメリットがあると考えられます。

ただし、現時点ではロボット支援手術は必ずしもすべての患者さんに適しているわけではありません。従来の、小さな穴からカメラを挿入して術者の手で手術を行う“胸腔鏡手術”や胸を大きく開いて行う“開胸手術”の方が安全かつ正確に手術ができる患者さんもたくさんおられます。当科では、患者さんの希望を十分に聞きながら、患者さんの病気の種類

や進行具合などを総合的に判断し、最善の手術法を提案しています。ロボット支援手術に限らず、呼吸器外科領域の治療に関してお聞きになりたいことがあれば気軽に外来を受診ください。相談のみのセカンドオピニオンも歓迎です。(文責：産業医科大大学第2外科教授兼産業医科大学病院呼吸器・胸部外科診療科長 田中文啓)